

教員採用試験合格を目指して

教職支援センター長

齊 山 美津子

- I 今日、学校教育に携わる人材には、専門職業人として高度な資質能力が求められています。学校現場の抱える課題が複雑化・多様化している中で、課題探求的な活動を自ら体験し、新たな学びを展開できる実践的指導力、幅広い視野に立って柔軟に対応できる指導の即応性・柔軟性、同僚と協働して組織として困難な課題に対応できるマネジメント力、地域との連携などを円滑に行うためのコミュニケーション力など、その能力は多岐に亘ります。学校教育では、各教科はもちろんのこと、特に小学校英語教育、理数教育、道徳教育、特別支援教育、外国人児童生徒への対応、ICT活用の要請など、社会の急速な進展の中で必要な知識・技能を絶え間なく刷新し、教職生活全体を通じて学び続けることが必要です。このような教育界の中で、教育の充実発展を願い、全国各地で多くの教師が活躍されていますが、皆さんもその仲間入りを目指し、必要な資質・能力の向上に努め、教職への道を邁進していることと思います。
- II 昨今の教員採用の状況は、小学校教諭を中心に募集枠が増加しつつあります。中学校・高等学校においては、再任用制度の影響や少子化に伴う学校の統廃合の影響で、正規教諭の採用数を抑える傾向も無視できません。本学の平成26年度教員採用候補者選考試験合格者は、都府県市で多くの合格者があり、新卒の合格者は昨年より増加の傾向となりました。
- III 採用試験はほとんどの自治体が二段階による選考を行っており、概ね一次試験は、学力試験と人物試験、二次試験が人物試験です。内容の試験科目は都道府県市によって多少異なりますが、①一般教養：中高レベルの国語・数学（算数）、理科、社会、英語、また芸術、体育、情報処理、自治体のご当地問題など、②教職教養：大学で履修する教育原理（人権教育・特別支援教育を含む）、教育心理、教育史、教育法規、③教科専門：小学校全科、中学校・高等学校の専門教科で高校修了までのレベル④論文：1000字程度の小論文など、⑤中学校・高等学校の技術・音楽・体育では高い技能が求められ、英語教育は高度化への大きな改革実施計画がありますので要注視です。
- IV 面接試験は人物重視といわれ、面接試験の比重も増えてきています。面接試験は、個人面接、集団面接、集団討論などがあり、模擬授業・場面指導・ロールプレイを含むところもあります。
- 自らの人間性、協調性、積極性、表現力、社会性などは、日常の生活の中で培われます。そして、日頃から、自らの人格、知識、教養を高める自己研鑽が大切です。教育に対する情熱・理念を高揚し、しっかりとした教育理念を持ち、自分の考えや思いをしっかりと述べる力が必要です。
- V 幼稚園・保育所は、平成26年度実施の採用試験で、公立の合格者が増加してきました。公立の試験は、ほとんどが市町村単位で行われています。幼稚園の場合、政令指定都市では小中の教員と同時に募集しており、小学校などの教員採用試験と同様に考えてください。政令指定都市以外は一般職員と同時に募集している市町が多く、公務員試験も意識しておくといよいでしょう。したがって、募集の詳細は、各市町のホームページや広報を注視しておく必要があります。公立を目指している人は早めに準備を進めましょう。私立の採用試験は多くは7月から求人案内が教職支援センターに届けられます。
- VI みんな一日24時間！！合格者の学生生活をみると、積極的にクラブ活動やボランティア活動をしています。時間の効率的な使い方、集中力、行動力が合格に繋がっています。「計画的に」「地道に」「積極的に」「仲間と共に」「学生生活を楽しみながら」希望を実現させましょう。